



株式会社 成春工業  
代表取締役

## 川口 竜平

16歳で社会に出て直向きに技術を磨き、様々な経験を蓄積した川口社長。  
21歳の若さで独立を果たし当初は苦勞を重ねながらも、現在は堅調な歩みを進めている。  
従業員にいつも話すのは、「挨拶の大切さ」。そして「人の話に耳を傾けることの大切さ」だ。  
「人それぞれ考え方が違うのは当たり前。相手に自分の考えを押しつけてはいけない」と社長。  
自分が正しいと思うのではなく、周囲の意見をよく聞くことで自身にとってプラスになるはず。  
社長自身がそうして真摯な姿勢で信頼を紡いできたからこそ、その言葉には重みがある。

**「相手に自分の考えを押しつけるのではなく、  
寄り添い、真摯に耳を傾けることが必要」**



# 社会を支えるプロとしての誇りを胸に 「一步先の建設業界」の実現を目指す

「確かな技術、IT リテラシーを兼ね備えた  
職人の育成に力を注いでいきたい」

代表取締役

川口 竜平

「誠実なお人柄が伝わってきました。  
今後のご活躍がますます楽しみです」

ダンカン

タレント

special

interview

埼玉県春日部市を拠点に、建物の改修に伴う外壁工事や防水工事、止水工事、塗装工事、足場仮設工事などを手掛ける『成春工業』。川口社長は21歳の若さで同社を立ち上げ、着実に成長を遂げてきた。タレントのダンカン氏が、そんな社長に様々なお話を伺った。

—早速ですが、川口社長の歩みから。

埼玉県春日部市の出身です。二人の弟がいるのですが、小さいころから両親に何かにつけて「あなたはお兄ちゃんなんだから」と言われて育ちました。そういうこともあり、常に自分のためではなく他人のために動くことが好きな子どもでした。それで役に立つことができたり、喜んでもらえたりすると、とても嬉しかったです。中学生になると、将来は良い大学に入って良い会社に就職したい—漠然とではありますが、そんな未来予想図を思い描いていました。ただ、特にやりたい仕事というのはなかったんです（苦笑）。

—では社会人の第一歩はどのような仕事を？

学業を終えて、すぐ建設業界に飛び込みました。当時友人たちが携わっていた足場仮設工事の仕事に就いたんです。2年半ほど腕を磨き、現在手掛けている外壁の補修工事や防水工事、塗装工事の仕事に軸足を移しました。その中で技術の幅を広げていったんです。

—そうして独立を意識されるようになったと。

ええ。18歳のころには、自分の手で事業を手掛けてみたいと考えようになりました。そして実際に独立したのが、21歳の時。個人事業からスタートし、

法人化を経て現在に至ります。現在28歳なので、創業からでは7年ほどになりますね。

—お若くして独立されたんですね。自立派です。独立時、不安はありませんでしたか。

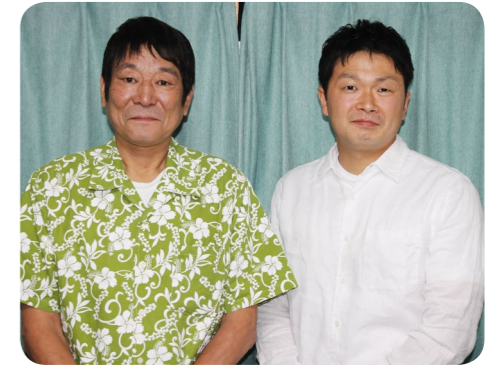
それはありませんでした。自分なりにたくさんの知識を吸収してきたつもりですし、独立を意識してからは人一倍努力を重ねてより多くの技術を身につけてきました。周囲の方々から心配されたりご指摘をいただいたりしたこともありましたが、独立してもやっていけるという自信しかなかったんです。

—10代後半から社会に出て経験を積み重ねてこられたわけですし、それが自信につながったのでしょうか。では順調にスタートを切られて？

技術力には自信がりましたが、お客様はいない、仕事はないというゼロからのスタートでしたから苦労しました。とにかく営業活動に奔走する日々が続いた

## column | 技術力、そして人間力が躍進につながる

▼21歳の若さで独立を果たした川口社長。だが当初はその若さがネックとなり苦労を重ねた。がむしゃらに営業をして、それでも明日の仕事の心配をする日々が続いたという。「ただ誠実に仕事をする、それしかできることはなかった。その中で、徐々に認めていただけるようになってきたのかなと思います」と社長は当時を振り返る。大きな転機となったのは、会社設立から2年ほど経ったころだ。270世帯ほどのマンションの改修工事を依頼され、その仕事ぶりが当時同じ現場に出ている業者の目に留まり、高い評価を得るに至ったのだ。「かなり大きな現場だったのですが、自分なりに提案をするなど先頭に立って行動していた」という社長。高い技術力だけでなく、社長の人間力が評価されたからこそ、『成春工業』の躍進につながったのだろう。



しょう。

当社専属の一人親方の方も含めて20名です。私はこれまで長く職人としてキャリアを重ねてきましたから、独立後も法人化後も変わらずずっと現場に出ました。ただ最近は手掛ける現場も増え、従業員も増えてきたので、全体を管理する立場として動くことが多いですね。とはいえ、時間がある時は従業員と一緒に現場に出て作業していますよ。

—社長は現場が好きなのですね。どのようなところに魅力があるのでしょうか。

私たちが手掛ける仕事は決して一人ではできないものではありません。皆と相談して意見を出し合って進めていくことが必要不可欠。途中天候に左右されて予定通りにいかないこともある。その中で試行錯誤を繰り返しながら、力を合わせて一つの現場を作り上げていく—。そして仕上がりを見て皆で達成感を共有できることがこの仕事の醍醐味ですし、お客様から「きれいになった」「ありがとう」

と声をかけていただけることは大きなやり甲斐につながっています。

—お話も尽きませんが、後はどのような展望を描いておられますか。

会社を大きくしたいという想いがありますし、それにより会社や私に関わりのある人々に豊かになってもらいたいですね。また今後は建設業界ではますますIT化が進んでいくと思いますが、まだまだITリテラシーが低い職人が多いのではないかと考えています。たとえばSNSを活用したり、プログラミングを用いたアプリを開発したりするなど、自社でITリテラシーを向上させる取り組みを積極的に進めていきたい。そうして確かな技術、ITリテラシーを兼ね備えた職人を育成していくことで、若い人が業界に興味を持ってくれることにもつながるのではないのでしょうか。誇りを持って携わることができる「一步先の建設業界」の実現に寄与していきたいです。

(2020年7月取材)